



Rotary
Club of KOBE EAST

The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報 No.385 2017-2018 No2

表紙絵：太原 震也元会員



会 長／吉井 正幸 副会長／山崎 仁嗣 幹 事／梅田 稔
広報委員長／白田 勉 副委員長／小谷 哲也
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長方針 「明るく・楽しく・みんなで奉仕!!」

I serve it together brightly and happily!



ロータリー：
変化をもたらす

RI President

Ian H.S. Riseley
2017-2018年度国際ロータリー会長





国際ロータリー第 2680 地区神戸第 1 グループ

IM 実行委員長 中井 章詞

2017 - 2018 Intercity Meeting (IM) のご報告

IM とは、Intercity Meeting の頭文字で、近隣都市の複数のクラブで実施する都市連合会のことで、「IM 所属クラブ会員による討論と親睦の促進」が目的です。

今回、下記要領にて、神戸東ロータリークラブをホストとして開催致しました。

開催日：2017年11月18日（土）

開催時間：13：30 受付開始、14：00 開会

16：25 懇親会、17：45 閉会

会場：アリストンホテル神戸（旧ゴーフル・リッツ）

2017 - 2018 年度

神戸第 1 グループ IM のプログラムについて

14：00～開演、開会点鐘、国歌斉唱、友藤ソングリーダー指揮「奉仕の理想」斉唱の厳かな中でスタート。菅野会員司会の下、中井実行委員長、吉井ホストクラブ会長、主催者野田ガバナー補佐挨拶、来賓紹介等の後、久野 PG による基調講演は、1. ロータリーが今迎えている危機として、会員減少の

問題。2. RI 戦略計画の変遷として「人道的奉仕団体」への変化。3. 2016年規定審議会については、これまでの規制緩和の流れ。4. 21世紀のロータリーのビジョンとして、「職業奉仕団体」への回帰について、解りやすくロータリーの根幹に関わる貴重なご講演を頂きました。5分の休憩を挟み、パネルディスカッションが、各クラブ選出の6名のパネルリスト（神戸 RC：横山 政夫様、神戸東灘 RC：横山 道男様、神戸南 RC：石丸 鐵太郎様、神戸六甲 RC：藤井 佳朗様、神戸ベイ RC：須藤 仁一様）と、須藤雄二コーディネーターによるパネルディスカッションが行われました。まず、規定審議会の内容について

1. 会員身分に柔軟性を認める件について、
2. 例会と出席に柔軟性を認める件について
3. クラブの目的、クラブ委員会構成の簡素化、入会金問題

各パネリストのご意見を伺いながら、各クラブでの状況や事情について具体的な問題点が浮き彫りに押された感があり、ロータリーの根幹に近づく充実したパネルディスカッションの内容となり、そして何よりも、各クラブが「どうする 日本のロータリー」へ向け真剣に考えられている姿が示されました。

その後、会場を移し懇親会が行われ、野々村副実行委員長挨拶、赤木 PG の乾杯の音頭により懇親会を開幕、瀧川ガバナー、浅木ガバナーノミニーにご挨拶頂き、全 13 テーブルには、それぞれ 2 名ずつの神戸東 RC の会員について頂き、懇親の場を盛り上げて頂きながら交流を深めて頂けたと思います。宴たけなわではありませんでしたが、澤田副実行委員長の閉会の挨拶後、友藤ソングリーダーにより「手に手つないで」を合唱して、17:45 閉会解散致しました。

今回の神戸第 1 グループ IM 登録総数：243 名、内懇親会参加者：来賓 4 名を含め 123 名、「IM 所

属クラブ会員による討論と親睦の促進」という原点に回帰した「野田 IM」になりました。特に、久野 PG の基調講演「21 世紀のロータリービジョン」は、多くの参加者に深い感銘を与えたものと思います。会場からは、3 年に 1 度位、規定審議会の後に、IM 開催を望む声が聞こえていました事を添えまして、2017 年神戸第 1 グループ IM のご報告とさせていただきます。





北野クラブにおいて 第1回会員親睦会を開催



9月12日夜、北野クラブにおいて、今年度第1回目の会員親睦会を開催しました。60名の会員にご参加いただき盛会となったことを感謝いたします。オープニングでは、書道家の安田舞さんに書道パフォーマンスを披露していただき、高さ1.8メートル、幅3.6メートルの大きな紙に、「相愛」という文字を書いていただきました。この言葉は吉井会

長から安田舞さんに今年度の会長方針をお話しされ、その結果安田さんから提案いただいたものです。北野クラブの美味しい料理と、今井会員セレクトのワインをいただき、終始和やかな親睦会となりました。新入会員もご挨拶をさせていただき、会員同士の親睦が深まりました。

(親睦委員長 山本 裕計)





職場訪問 「ヤクルト本社、兵庫三木工場を見学」



本年度の職場訪問は10月24日ヤクルト本社三木工場を見学させていただきました。私達の体は約60兆の細胞で成り立っていますが、人間の腸内（小腸、大腸）に宿っている腸内細菌は100～1000兆と言われています。腸内細菌の働きには病原体侵入の防御、ビタミン類の生成、免疫力の70%を作り出す・・・など色々な働きがあり人体には不可欠ですが、人体と腸内細菌は共生し共に助け合いながらそれぞれの生命を維持しています。この腸内細菌に良い働きをする微生物（善玉菌）またはそれらを含む製品、食品のことをプロバイオティクスと言い、その世界的メーカーがヤクルトです。見学ではヤクルト生みの親である代田 稔 博士が胃酸に負けることなく腸に届く「乳酸菌シロタ株」を開発した経緯、製品が世

界30ヶ国以上で生産され各国のヤクルトレディーにより販売されていること、本邦における生産体制などの説明を受け、製品の試飲をした後に実際の工場見学に移りました。最初から見学者を想定して作られている工場は中央に見学用通路があり左右に工場内を見学できるようになっています。少数の人間にコンピューター管理された工場は整然とたくさんの製品をスピーディに作り出していました。まさに現在の食品工場の最先端を見学させていただきました。製造機器のすばらしさに感心すると同時に人間の手作りに対する郷愁も感じました。見学後にはたくさんのヤクルト製品のお土産をいただきました。特にご助力いただいた神戸ヤクルト販売様に感謝いたします。

（職業奉仕委員長 三戸岡 英樹）

第1回ラウンドテーブル会『会員資格と職業奉仕』



2017年10月31日今年度第1回のラウンドテーブル会を開催いたしました。

今回は、当神戸東ロータリークラブが6年ぶりにIMをホストすることとなりましたので、IMを主テーマにラウンドテーブル会を行い、出席者総数29名となりました。

そもそも、IMとは Intercity Meeting の頭文字で、近隣都市の複数のクラブで実施する都市連合会のことです。今回のIMでは、2016年規定審議会の決定を受け、規制緩和とともとれる、自由裁量権が増大しました。この中で、①会員の全般的資格条件、②会員資格について、③職業についたことが無い人が会員になった場合、の3点につき事前にアンケートを取った資料を基に、第1回のラウンドテーブル会を「中華料理 天安閣」で開催するに至りました。私から

は委員長挨拶及び今回の議題を説明させていただきました。

吉井正幸会長よりご挨拶と乾杯のご発声をしていただいた後、今回はコミュニケーションの取りやすい環境ということもありまして、各テーブルでは忌憚のないディスカッションがなされ、会の終盤にはテーブルマスターよりIMの参考になる意見を発表して頂きました。

その結果、我クラブでは概ねこれまでのロータリーの在り方、職業奉仕の理念から逸脱しない考えを、多くの会員がお持ちであることが確認できました。

最後に、中井章詞副委員長より、全体のまとめとIMのPRを添えた閉会挨拶をしていただき、第1回ラウンドテーブル会を終えました。

(ロータリー情報委員長 乙守 典厚)



第6回神戸市立王子動物園 絵画教室 (永田 萌さんとの写生会) が実施されました



平成29年11月26日(日曜日)、第6回「神戸市立王子動物園 絵画教室(永田萌さんとの写生会)」が実施されました。神戸東ロータリークラブでは第1回の開催から、写生会を後援すると共に、ボランティアスタッフとして運営にも参加・協力をしています。今年は例年と比べると、多少参加者が少なかった様

ですが、永田萌先生と菅野翔平先生は、かえってそれを活かして、一人一人の書いた絵に講評を加える熱血指導を行い、参加した子供にとっては大変印象深い、心に残る写生会となりました。

(青少年奉仕委員長 四方 克明)



絵本作家 永田萌さんと王子動物園で絵を描こう

主催：神戸市立王子動物園・縁結社 後援：神戸東ロータリークラブ・神戸市教育委員会・神戸新聞社 協賛：(株)神戸王子動物園





恒例の友生支援学校招待ボウリング大会を 160人の参加で開催



平成 29 年 12 月 8 日（金）神戸六甲ボウリング場におきまして、神戸市立友生支援学校招待ボウリング大会を開催いたしました。参加人数は、先生・生徒合わせて約 140 人、神戸東ロータリークラブのメンバー 20 名と賑やかな会となりました。ゲーム中は

元気な歓声が行き交い、生徒達は充実した時間を過ごせたと思います。私たちロータリアンも生徒達からエネルギーをいただき来年もこのボウリング大会を継続する大切さを感じました。

（社会奉仕委員長 鈴木 祐一）



森本 楽
—きずな神戸—

この度、5月に入会をさせていただきました、行政書士法人きずな神戸の森本楽と申します。このような自己紹介をさせていただけます場を頂きまして誠にありがとうございます。限られたお時間ではございますが精一杯発表させていただきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。氏名は森本楽（もりもとがく）と申します。年齢は今年の10月3日をもちまして43歳となります。学歴は、中学から甲南中学に入学し、大学も甲南大学でした。家族は4人家族でございまして、妻とは2000年12月に結婚をしております。現在、息子は甲南高校1年生でバスケットをしており、娘は甲南女子中学校2年生で、アーチェリーとゴルフをしております。現在、西宮の鷲林寺南町というところに住んでおります。私の名前「楽（がく）」の由来は、父が学生時代（武蔵野美術大学）より陶芸をしていた関係で、焼物にまつわる名前をつけたかったようで、信楽焼の「楽」をとって「がく」と名付けたようです。小さい頃は、名前の読み方がわからないという事でよく「なんと読むの？」と聞かれ、少しコンプレックスを持っていましたが、現在では皆さまから「楽ちゃん」と親しみを込めて呼んでいただいております、とてもよい名前を付けてくれたと感謝しております。中学2年生くら

いから学生生活がおかしくなり、高校1年生を2回するということになり、当時両親にはとても迷惑をかけたと反省をしている一方、2学年にわたり生涯の友人ができましたことが、今となっては大変大きな財産となっております。大学時代は、体育会バスケットボール部に所属をし、4年生の時には主将を任せられ、幸いにも約30年ぶりに関西1部リーグに昇格する事ができ、大変素晴らしい経験・思い出ができました。就職活動は、現在の職場である行政書士法人（家業）に将来入社する事を前提に、お客様である自動車リース会社に絞り、現在の住友三井オートサービス(株)様に入社を致しました。同社で5年間勤め、その後、北海道札幌市に本社を構える、キャリアバンク(株)様へ1年間だけ勤めさせていただきました。同社の代表者の方のもので1年間働かせていただき、代表者としての働き方を学ばせていただきました。そして29歳の時に、現在の会社である、行政書士法人きずな神戸に入社をさせていただきました。入社後3カ月目で東京オフィスを立ち上げるという事で、私を含めて3名で東京オフィスをスタート致しました。その後東京オフィスで5年間勤め、34歳の時に現職であります代表社員に就任を致しました。34歳に代表に就任させていただきましたが、本当に未熟者でございまして数多くの失敗をして参りましたが、今年42歳でようやく経営者とはどのような立場なのかという事を理解しだしたような気がしております。経営者としても人間としてもまだまだ本当に未熟者でございまして、社員の皆さんをまだまだ幸せにする事ができておりませんが、何とか60歳になった時には、弊社の社員の皆さんがこの会社に入社して本当に良かったと思っていただける会社を目指して、これからも一所懸命に働いていきたいと思っております。そして仕事を通じて、ロータリアンとして恥じる事のない人間性を兼ね備える事ができますよう精進して参りますので、今後とも何卒ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。



藤井 卓哉
—大和証券 神戸支店—

私は1973年2月に神戸市長田区に生まれました。現在44歳です。

大和証券神戸支店開設以来、私が42代目の支店長となります。

歴代の支店長着任時の平均年齢は、恐らくですが50歳を超えていると思います。

42名の歴代支店長の中で、私が突出して若僧であることは決して会社が神戸支店を軽んじているわけではありません。また、私が極めて順風満帆な道を歩んできたからというわけでもありません。その辺の謎をこれからお話しさせていただき自己紹介を通じてご理解いただけると幸いです。

さて、私が長田で生まれた当時、父は小説の執筆活動をしていたそうです。

私の誕生後、程なく三洋電気に転職。守口市本社への通勤の利便上、大阪の枚方市に転居することになります。

人生最初の転機が訪れたのは、小学校5年生の時です。父が40の若さにして心臓病を患い突然他界しました。私の卒業を待ち、中学入学時より祖父の住む岡山に転居しました。

その後、高校卒業までの6年間を岡山で生活する

ことになったのですが、私にとっては突然の環境の変化。関西に戻りたいという気持ちが日に日に増していき、いつしか大学は絶対に関西に戻りたいという強い願望を持つようになりました。

その願いが叶い、大学は関西学院大学に進学。当時の神戸アメリカ村でバイトを始めました。しかし、授業時間の都合ですぐに心斎橋にある北海道料理店でのアルバイトに変更しました。

包丁を握るうちに、すっかり料理の世界の魅力に惹きこまれ大学3年生の時には調理師免許を取得し、卒業後はJRの準社員として大阪駅に出店予定するまでに至っていました。

卒業を待つ1995年1月に人生2度目の大きな転機が訪れました。阪神淡路大震災です。JRから震災の影響も考慮して当面出店は見合わせたいとの連絡が入りました。「とりあえず大和証券で食いつなごう!」と、学生生活の記念として内定をもらっていた大和証券へ入社しました。

最初の配属先である広島支店では、配属翌日から「辞めたい!」の日々でした。当時の職場環境は劣悪そのもので、罵声を浴びに会社に足を運ぶ毎日でした。

人生3度目の転機はこの広島支店配属の1年後、結婚という形で訪れます。

日々のストレスに耐えかねて勢いで結婚してしまったというのが本音です。

そしてこの結婚を機に経済的理由でずるずると脱サラから脱線していきます。

気が付けば広島に6年間在籍しました。

その後豊中支店では6年半。仕事の楽しさも徐々に分かり、この時期にお客様として数多くの関学の先輩に助けていただきました。

34歳から渋谷支店での3年を経て営業サポート部IW課というところに配属されました。この部署を出ると99%次の異動で支店長になっています。

しかし、この汚点とも言える1%の例外を私が作ってしまいました。渋谷支店時代のトラブルの責任を問われる格好で、他のメンバーが全員支店長で異動していく中、私一人10カ月で営業員として再び現場への異動を命じられました。

人生で一番大きいと思えた挫折です。真剣に退職を考えた一方で、妻と子供3人の生活を支える義務感との葛藤でしばらく食事が喉を通らないほど悩みました。結局岡山支店に営業員として配属。

そこから1年、呪文のように「トップセールスに返り咲け!」「負けるな!」と自分を鼓舞し続けました。そうして人生で一番頑張った1年後。

当時の岡山支店長から異動を命じられました。

「そこ!」指が指している方向は支店長室でした。

当時39歳。神戸支店同様に岡山支店も歴代支店長の平均年齢は50弱という老舗で腰が抜けるほど驚きました。

後に会長から頂いた言葉は、「つまずいても頑張れば報われるというシンボルになってくれ!」でした。

その後3年半岡山支店長を勤めた後、本部の投資信託部長として1年半。

この本部での勤務中「現場に戻りたい病」を発症します。

不思議なもので、あれだけ嫌だった現場のはずが、頑張って実績を残すと楽しい思い出に変わっていました。専務にその気持ちをストレートに伝えました。

そして専務から帰ってきた返事には

なんと「関西に戻りたい病」の薬まで処方された神戸支店長でした。





森本 光一
—スパイラルグラフィック—

今年5月に入会させていただきました、森本光一と申します。

今日は、貴重な例会のお時間をいただきまして、自己紹介をさせていただきます。

私は、昭和42年12月、神戸市須磨区生まれの49歳です。

血液型はA型。血糖値は高く、メタボです。

家族は、同い年の妻、23歳の長女、高校3年生になる18歳の双子の次女と三女、75歳の父の6人で暮らしております（女系家族です）。

職業は、企画制作の株式会社スパイラルグラフィックの代表取締役。現在も現場でがっちり制作をしています。

今の仕事に至るきっかけとなったのは、高校時代に始めたバンド活動にあります。ドラムを叩いており、16歳から26歳まで続けていました。大学中退後、バンドを続けながらできる仕事はないか？と考えていた時に、友人から現在の「グラフィックデザイン」という職業があると聞き、安直にこの世界を目指したのがはじまりです。

19歳で入社した軽オフセット印刷の会社を経て、写植と版下を制作する会社では「倒産」というものを目の当たりにしました。このとき、これからは「手に職をつけなアカン」「自分の食い扶持は自分で稼ぐんや」と強く思いました。

夢は、「三十にして立つ」。30歳には独立開業をし

たいと考えておりました。

それから電話帳で制作会社、デザイン会社と書かれている会社を上から順に「一度会って欲しい」と電話をして、最終的に「デザインスタジオアダムス」という小さなデザイン会社に就職。現在は亡くなっていますが「名村郁夫」という師匠に出会いました。

これが本当の意味でのデザイン業界のスタートとなりました。

朝9時に出社して、徹夜して寝ている師匠を起こし、朝のコーヒーをいれるのが、まず私の日課でした。今でも旨いコーヒーをいれるのには自信があります。

そして、1995年。長くお世話になった師匠には申し訳なかったのですが、以前から考えていた「独立」について相談し、担当していた仕事をやり終え、27歳で現在のスパイラルグラフィックを開業しました。

社名「スパイラルグラフィック」は、まわりの人を巻き込む渦のようなイメージで名付けました。また、「パ」や「グ」などの音を社名に入れることにより、重厚感や安心感、インパクトや覚えやすさなど「ひっかかり」のある印象になるよう意識しています。この「ひっかかり」というものを、現在の仕事においても、社名や商品名をご提案する際に大切にしています。

お客様を持たずに「飛び込み営業」からスタートした弊社ですが、その後、元町に小さな事務所を構え、4年後には初めてスタッフを雇用することができました。現在は、浪花町にある三宮電ビルの一室に落ち着いております。

あらためて、どんな仕事をさせていただいているかと言いますと、集客PRから企業や商品の見え方などについてご提案しています。チラシやパンフレット、ポスターなどの紙媒体や、ホームページ、店舗なども制作の対象です。

法人設立を含めて現在まで22年間が経ちましたが、今でも、お世話になった師匠からいただいた言葉を大切にしており、自分に負けそうな時は思い出して、「もう少しだけ頑張ろう」と、自分に言い聞かせています。

つたない卓話となりましたが、以上で私の自己紹介を終わらせていただきます。

長時間皆様の貴重なお時間を頂戴し、自己紹介をさせていただきましたことを、本当に感謝いたします。今後ともよろしくご依頼申し上げます。



村井 通浩

—メットライフ生命保険—

本年6月に入会させていただきました村井通浩です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年の流行語ノミネート30語の中に「人生100年時代」という言葉がありました。関連する書籍もたくさん出ていますが、人生が100年と考えると、今までのような教育、勤労、引退という3つのステージではなく、新しい生き方があるのではと考えていました。そう考えているタイミングで神戸東ロータリークラブにお誘いをいただきました。人生の諸先輩が多く活躍されるロータリークラブで一緒にできることは私にとりまして大きなプラスになると考えて入会を決断いたしました。

私は兵庫県西脇市で生まれ、現在47歳です。小、中、高と西脇の公立の学校を卒業し、大学は神戸商科大学（現兵庫県立大学）の商経学部を平成6年3月に卒業いたしました。大学時代は板宿に4年間下宿し、学園都市の大学に市営地下鉄で通学していました。家族は同い年の妻、結婚19年になります。住まいは神戸市西区（西神中央）です。趣味は、旅行（海外個人旅行）、ゴルフは最近100をきれませんが月1回程度行っています。

大学を卒業後、三宮に本社がありました川鉄建材工業株式会社（現JFE建材株式会社）に就職し、社内

の企画・調整の部署に配属されました。当初、納期調整業務で営業担当者、工場担当者から電話で怒鳴られる日々でした。新入社員である私が双方の立場、考えを理解し、納得いく調整をすることに大変苦労しましたが、会社全体の仕組みを知るいい機会でもありました。この経験は今でも大変活かされています。企画・調整業務を中心としてこの会社で11年間お世話になりました。

そして、34歳の時にメットライフ生命保険株式会社（旧アリコジャパン）に転職いたしました。前会社での仕事はやりがいもありましたが、一度の人生で自分がどこまでできるかチャレンジしたいという思いからの転職でした。前職ではデスクワーク中心でしたが、外回りの営業、行く先も全て自分で開拓する日々、全くの未経験でわからないことばかりでした。そんな私を応援してくださったのは、前職の上司、同僚でした。今でもお付き合いさせていただいていますが、本当に感謝しています。そして、転職を機に従兄弟からの紹介で神戸青年会議所に入会いたしました。多種多様な仕事を持ち、仕事にも自分にも厳しく向き合っている方々から多くのアドバイスをいただきました。

会社概要ですが、1973年日本で初めての外資系生命保険会社として営業を開始しております。私は大阪の「大阪セントラルエイジェンシーオフィス」という営業所に所属しております。最寄りの駅はJR桜ノ宮駅です。オフィス（営業所）はそれぞれ独立しており、全国に約100のオフィスがあります。最初にお話しましたが、転勤がありませんので入社以来、大阪まで西神中央から通勤しております。営業はお客様からのご紹介をメインとしてやらせていただいておりますが、お客様にどのような貢献ができるかをまず考え抜き、日々活動しております。

これまでの人生、本当にたくさんの方にお世話になりました。その方々への「感謝」の気持ちを忘れずに、またお返しできるように頑張っていきたいと考えております。

神戸東ロータリークラブに入会させていただき、6ヶ月が経ちました。まだまだわからないことばかりですので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。



横山 良範

—キリンビール 神戸支社—

1962年2月19日、岡山県浅口郡鴨方町に、父昭士と母宮子の長男として生を受ける。

父昭士は次男であったが、長男夫婦が教師であり東京で働きたいと家を出たもので、田舎ではあるが、旧家の跡取となり宮子と結婚。

ところが、私が生まれて直ぐにその長男夫婦が帰ってきてしまい、当然長男夫婦が家を継ぐことになり、両親は生後数か月の私を連れて、父の姉が嫁いだ神戸市諏訪山の森建設に家族住み込みで転職。

母は田舎なりのお嬢様だったのですが、飯場で従業員の炊事洗濯を任せられ、私は放ったらかしだったようです。当時は、学校長推薦で同志社大学へ進学が決まっていたようですが、百姓の跡取が大学など行かずとも良い、と祖父に叱責され止む無く高卒で百姓を継いだにも拘らず、追い出される形となった。

そんな状況下、私が3歳の時に、タンスの引き出しを下から順に開けて階段状態にし最上段から風呂敷マントを括って飛び降りて遊んでいたところ、手から着地した際に左腕ひじ関節を複雑骨折してしまった。当時は切開手術をすると神経を傷つける可能性があり、そのまま、一か八か石膏で固められてしまったが、案の定、変形して固まってしまった。

その為、小学生のころは、気をつけの姿勢が嫌で仕方がなかった。

そんなことで、姉の所も飛び出て、湊川・長田区明泉寺と転々と住処を変わり、父も大阪府枚方市の大阪郵交陸運と言う会社へ転職したが、通勤が遠いため、高槻へ8歳で転居した。

小さいながらも両方の親の支援もあり、戸建て住宅であったが当然ローンは残っていた。

話は変わるが、そのような幼少期であるため、私が小学生のころは、春・夏・冬休みは、母方の田舎へ殆ど預けられていた。母方の田舎もそこそこの農家でした、米、桃、ぶどう、タバコの葉っぱなどを栽培し、祖父は農業組合の組合長などもしていたようです。当時は未だ五右衛門風呂・ポットン便所であり、風呂をくべるのは、子供の仕事でした。しかしお陰様で火の起こし方、焼き芋の焼き方などを習得し、アウトドア好きなオッサンの素地が出来上がりました。

その後、大きな変化もなく中学3年の春休み、父が大きなワンボックスに私を乗せて、勤めていた会社へ行き、冷蔵庫・エアコンを外して持ち帰ろうとするので、訳を訊くと会社が清算され、退職金もないので頂いて帰る、との事。

中坊なりに、こりゃ家の家計は大変だな、高校など行けるのか?と不安に思っていると、父は察したのか、俺が行けなかった大学までは出してやるから心配するなど・・・

結果そこそこ勉強して府立三島高等学校へ入学。ちなみに当時は兵庫高校クラス?

そのまま、真面目に勉強していれば良かったのですが、インベーダーゲームの全盛期であり、学校へ行っても午前中は殆ど喫茶店。パチンコ昼飯を食べに学校へ戻り午後の二時間だけ出席などと言う日もありました。高3の夏頃になるとさすがにヤバイ、と思い人生で最も机に向かった時期でした。結果当

RCにも多くの先輩後輩がいらっしゃる甲南大学へ入学し、幸せな大学生活を送らせてもらい、1984年(株)そごうへ入社。5年目には結婚し順風満帆かと思いきや、6年目の夏に上司と喧嘩し飛び出たため、しばらくプー太郎となり、数か月後になにわ銀行へ入行するも、性分に合わず、又飛び出て現在のキリンビールへ入社となる。いよいよ幸せな人生が・・・と思った矢先、同年、夫婦離別。バツイチとなる。

94年に再婚し95年に長女、00年に次女をもうけるも、同年二回目の離婚。ただし子は鎧と言いますか、01年に復縁。

仕事の面では、02年に史上最年少で大分支社長に就任、その後北部九州支社長、中国支社長、京滋支社長、現神戸支社長と歴任させて頂いている、が広島の際に、ホールディングス専務に、ピンハネ業らしく、子分(事業会社)に役に立て。と言ってしまうそこからうだつが上がらなくなってしまった、と思うのは私だけだろうか???





美味しい食事と歓談により、
明るく・楽しくひと時を過ごしました。



2017年12月26日火曜日、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにて忘年家族会及び例会を開催しました。例会17:30分から18:00から忘年家族会を開始。124名の出席者のなか吉井会長挨拶から始まりロータリークラブのコーラス全国大会での実力者である、むつみ会とコーラス同好会の歌声に聞きほれ余韻の残るなか懇親会がスタートしました。

野田ガバナー補佐の乾杯に続き1年の終わりを振り返りながら楽しく歓談しているなか、お楽しみ抽選会を開催しました。会員の皆様方からご厚意の景品

の寄贈を賜り多くの景品が集まりました。また、抽選券も皆様の暖かいご協力により沢山購入していただきチャリティーとして大変有難く頂戴致しました。

大変盛り上がったお楽しみ抽選会の後、クィーンズ・ティアーズハニー6人の女性によるアカペラ演奏が始まりました。抽選会の後の騒がしさが一瞬で静まり、天使のような歌声に聞きほれアンコールもお願いし満足のなか演奏終了しました。

最後に山崎副会長の閉会の挨拶でおしまれながらも終了しました。
(家族委員長 吉田 茂)





▲ 7月 25日 「すべてはお客の笑顔のために！ 商売は笑売」
日本旅行 平田進也氏



▲ 9月 5日 「未来の表現者を生み出すために・・・」
エスコヤマ代表 小山進氏



▲ 8月 8日 「IM について」
IM 実行委員長 中井章詞 会員
神戸第一グループガバナー補佐 野田晴清 会員



▲ 9月 12日 「小説を書くことは全てに通じる」
小説家、コラムニスト 畠山健二氏



▲ 10月 3日 「米山記念奨学委員長からのお願い」
米山記念奨学委員長 宮昭久 会員



▲ 8月 29日 「会員増強・拡大月間」
地区増強・拡大副委員長 四方克明 会員
会員増強委員長 藤本義洋 会員



▲ 10月 17日 「漢方と薬膳についてのお話」
株式会社咲美堂 代表取締役 池田哲子氏



▲ 10月24日「音楽は癒しか力強さか」
合同会社ストーリーア 代表 堀内文子氏



▲ 12月12日「神戸空港は新たなステージへ」
神戸市みなと総局空港事業部
誘致担当部長 岡田宏二氏



▲ 10月31日「IMについて」
IM実行委員長 中井章詞 会員



▲ 1月9日「初釜例会」
川島宗治 会員



▲ 11月7日「ロータリー財団委員長からのお願い」
ロータリー財団委員長 上村伸幸 会員



▲ 1月16日「職業奉仕月間に因んで」
大谷透氏



▲ 11月14日「尊厳死について」
医師 辻文生氏



▲ 1月23日「孫文記念館について」
孫文記念館 館長 愛新翼氏



余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年九月一日

於 西村屋 花みかげ

星明り巻き込みて果つ花木権

本郷 桂子

大闇へ花火隅なく拡がりて

執行 執艸

墓参大きな傘を墓にかけ

白羽 子誠

風もなくたらたら坂の残暑かな

角田 伯堂

息をのむこの夏一の夕日かな

則岡 弘士

水しぶき浴びて逃げ出す蟬二匹

塚本 宗哲

孫帰る戸より流れてくる残暑

壺井 仙岳

過疎の駅一便減りて秋暑し

吉井 聖倅

横たはる祖母に窓越し花木権

関本 剛紀

しづかなる狭庭の似合ふ白木権

松原 氣宏

咲きそめしむくげ可愛や生け垣に

池西 清栄

すぐそこに来てゐる秋の気配かな

橘 恵子

潔く散り敷く木槿今朝の庭

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年十月二十八日

於 西村屋 花みかげ

一盛のみかん買ひ置く子の下宿

奥田 好子

トンネルを出ひて日の照る蜜柑山

執行 執艸

銀杏に埋もれし道をかきこそと

白羽 子誠

昼餉終え会話途切れてみかん剥く

角田 伯堂

秋高し群青の空突き抜ける

則岡 弘士

みかん山黄色と緑空は青

塚本 宗哲

砲台の跡鎮もりて秋行けり

壺井 仙岳

行秋や山の彩変はりをり

松谷 泰山

銀杏を煎りし屋台の茶髪かな

吉井 聖倅

行秋の晴天に浮く雲白し

関本 剛紀

店先の口上につい柿を買ふ

松原 氣宏

つなぐ手に銀杏ぼとり厄師堂

池西 清栄

戦なき砲台跡に木の実落つ

橘 恵子

鯉跳んで運河の秋の水乱す

村野 離翔

一陣の風に舞ひをりこぼれ秋

飯田 美音

余韻会 (俳句同好会)

平成二十九年十一月二十一日

於 西村屋 花みかげ

村挙げて一族挙げて七五三

奥田 好子

小春日や海の底まで日の光

執行 執艸

お揃ひのネクタイしめて七五三

白羽 子誠

寝むりても手にはしつかり千歳飴

則岡 弘士

孫姫の緊張を見る七五三

塚本 宗哲

我人生誉められもせず小春かな

壺井 仙岳

色深し奥六甲の冬紅葉

松谷 泰山

落葉踏み時の移ろひ感じをり

松原 氣宏

なびく髪可愛いおべべ七五三

池西 清栄

島風に吹かれて黙す小春かな

橘 恵子

千歳飴引きづり引かれゆく子かな

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成三十年一月十八日

於 西村屋 花みかげ

一夜明け銀世界なる初景色

奥田 好子

病む友の無事の気配の初便り

執行 執艸

しんしんと夜の更けてくる隙間風

白羽 子誠

林立のビルの谷間の寒の月

角田 伯堂

孫娘大人びてをり年賀状

則岡 弘士

下の句が思ひ出さない歌かるた

塚本 宗哲

亡き母の口調にも似て歌留多読む

壺井 仙岳

初景色神戸の港一望に

松谷 泰山

初景色輝く海と港町

関本 剛紀

ぼそぼそと寡黙な父が歌留多読む

松原 氣宏

初空を仰ぎ幸あれ福あれと

池西 清栄

字を覚ゆ遊びの中の歌留多取り

橘 恵子

歌かるた習ひたての子ひとり勝

村野 離翔



絵と文 小倉 宗夫

「家飲み仲間たち」

もう30年になろうか、私の家飲み一杯目は焼酎に決めている。それも「むぎ焼酎 吉四六」に限る。別に深い理由は無いが、あとに続く食べ物、飲み物が何であろうか、シェリーの如く無難なのである。食後には、これも料理が何のあとであろうと果物はうんと冷やした柿が最も良い。ともすれば飲みすぎに頭を冷やしてくれる。

CONTENTS

IM 報告	1
第1回会員親睦会	3
職場訪問	5
第1回ラウンドテーブル会	6
王子動物園絵画教室	7
友生支援学校招待ボウリング大会	9
新会員自己紹介	10
忘年家族会	17
例会スナック	19
余韻会	21

編集後記

昨年は、北朝鮮の弾道ミサイル騒動に、翻弄された1年でした。それでも、我が神戸東ロータリークラブメンバーは、IM会議や、忘年家族会など、粛々と事業を行いました。その上半期事業活動の記録です。ぜひご覧下さい。

広報委員長 白田 勉